

# 健康診断検査項目のご説明

健康診断の結果につきまして気になる事がございましたら、常時外来にて承ります。

また再検査は外来にて行っております(木曜以外)。 検査内容によっては、事前に予約が必要なものもありますので、お電話にてお問い合わせください。

なお検査結果は、健康保険組合及び会社にも報告をさせて頂くことになります。

検査項目		詳細説明			
計測	BMI (Body Mass Index)	体重(kg)を身長(m)の2乗で割った値で、年齢・性別を問わない肥満度の指標です。			
		18.5未満	18.5～24.9	25.0～29.9	30.0以上
	体脂肪	やせ	標準	肥満気味	肥満
		男女別・年齢別の正常値	18歳～39歳	40歳～59歳	60歳～
		男性	11.0～21.0	12.0～22.0	14.0～24.0
		女性	21.0～34.0	22.0～35.0	23.0～36.0
聴力	人が聞き取れることのできる音の周波は20Hz～20000Hzなので健康診断では、1000Hzと4000Hzの周波数で音量を変えて調べます。				
血圧	心臓から送られた血液が動脈の壁に加える圧力です。血液を送り出す時を収縮期血圧、心臓が血液をためる間の血圧を拡張期血圧といいます。				
血液検査	白血球	炎症性疾患などの診断の指標となります。			
	赤血球	貧血の有無を調べます。			
	血色素量				
	ヘマトクリット				
	血小板数	血小板には、血を止める作用があります。血小板数が減ると出血しやすく、血も止まりにくくなります。			
肝機能	総蛋白	血液中の蛋白の総量を示します。			
	A/G比	慢性の肝臓疾患や膠原病、慢性感染症・悪性腫瘍時にその産生が増加し、結果的にこれらの疾患でA/G比は低下を示します。			
	総ビリルビン	胆汁の主成分です。肝臓障害がある場合や胆道に異常がある場合に高い値を示します。			
	TTT	肝硬変や慢性肝炎時に主に上昇を示します。それ以外の膠原病の自己免疫でも、上昇を示します。			
	ZTT				
	AST(GOT)	主に肝臓の異常に敏感に反応する検査です。肝炎・脂肪肝に代表される肝疾患の時に値が上昇します。			
	ALT(GPT)				
	γ-GT(γ-GTP)	肝臓に多く含まれる酵素です。アルコールの摂取量に対して敏感に反応し、アルコール性肝障害の指標となる検査です。			
	LDH	肝臓をはじめ赤血球・心臓・腎臓・筋肉等にも含まれる酵素です。肝臓疾患にて上昇しますが、前記臓器や組織の破壊時にも上昇を示します。			
	AL-P	主として肝臓疾患時に上昇する酵素です。特に胆道系の異常を伴った肝臓疾患にて上昇します。			
コリンエステラーゼ	肝硬変や慢性肝炎等でこの成分が少なくなり、値が低くなります。肝機能低下の重要なバロメーターとなる検査です。				
臍	アミラーゼ	臍臓及び唾液腺に存在する酵素です。主にこれらの臓器の異常で、異常高値を示します。			
	TPHA	過去の梅毒の感染の有無を調べるのが梅毒血清反応検査です。			
感染症	HBs抗原	B型肝炎ウイルスによる感染の有無を調べる検査です。HBs抗原陽性の場合体内に肝炎ウイルスが存在していることを意味します。			
	HBs抗体	一方、HBs抗体陽性の場合、過去に感染したことがあるか、ワクチン投与を受けたことがあることを意味します。			
	HCV抗体	C型肝炎ウイルスの有無を調べる検査です。			
脂質代謝	中性脂肪(トリグリセライド)	エネルギー源として重要な役割を果たします。増えすぎるとコレステロールと同様に動脈硬化の原因となります。			
	総コレステロール	コレステロールは、血管の強化、維持に必要な物質です。しかし増えすぎると、動脈硬化をはじめとしてさまざまな病気の原因となります。			
	HDLコレステロール	動脈の壁についた過剰なコレステロールをはがす役目をする善玉コレステロールです。低値の場合、動脈硬化が進行しやすいと考えられています。			
	LDLコレステロール	コレステロールの一種で動脈の壁にへばりつく悪玉コレステロールです。動脈硬化の危険危険因子と考えられています。			
糖代謝	空腹時血糖	糖尿病の有無やその程度を調べます。			
	尿糖	糖尿病を知る手がかりとなります。			
	ヘモグロビン	血色素(ヘモグロビン)の割合を測定しています。食事の影響を受けず、検査前の1ヶ月間くらいの血糖値の平均レベルを見ることが出来ます。			
	HOMA-R	HOMA-Rはインスリン抵抗性(インスリンの効き方)の指標です。体内でのインスリンの動きが悪いと値が高くなる事があります。			
尿・腎機能	尿素窒素	蛋白質の最終産物で、腎臓から尿へ排泄されます。身体組織が大量に壊れたり、肝機能に低下が起こると異常高値を示します。			
	クレアチニン	筋肉の中でエネルギーとして使われた物質の残りカスで、腎臓から尿中へ排泄されます。腎機能の低下や筋肉の疾患で異常高値を示します。			
	尿蛋白	腎臓や尿路系の障害、また激しい運動などで陽性となります。			
	尿潜血	尿路結石・腎炎・膀胱炎などの腎臓や尿路系の障害で陽性となりますが、一過性のものもあります。			
	ウロビリノーゲン	主に肝機能障害の時に異常な反応が出ます。			
	eGFR(推算糸球体濾過量)	老廃物を尿へ排泄する腎臓の能力を示す指標です。			
痛風	尿酸	体で作られるエネルギーの燃えカスのようなもので、激しい運動、プリン体の過剰摂取や腎機能障害により増加します。痛風の指標となります。			
血清反応	RF	関節リウマチの有無をチェックする検査です。健康者でも陽性となる場合があります。加齢に伴い上昇する傾向があります。			
	CRP	CRPとは体内に急性の炎症や組織の炎症があるときに、血清中に増える蛋白の一種です。炎症の有無や程度が把握できます。			
	抗CCP抗体	リウマチに対する高い特異性と感度を有し、リウマチの早期診断に有用です。			
心臓	BNP	心不全の臨床的指標として非常に有用とされています。			
胸	胸部レントゲン	肺や心臓の病気、その他胸部の臓器や異常の有無についての情報を得ることが出来ます。			
喀痰	喀痰細胞診	主に肺がんの有無をチェックする検査です。			
肺	肺機能	肺の機能検査は、一秒間で自分の息を最大どのくらい吐き出せるかを調べる一秒率、深呼吸時に肺に残る息の量を調べる残気量などがあります。この検査で、肺の機能や異常の有無を知ることが出来ます。			
心電図	心電図	心筋梗塞・狭心症・不整脈・心肥大等の診断に用いられます。			
眼	眼底検査	眼底の血管は、唯一観察できる血管です。この検査は眼の病気だけでなく、動脈硬化の程度を見る上で有用です。			
	眼圧測定	主に緑内障の有無をみる検査です。			
胃	胃部レントゲン	食道・胃・十二指腸をバリウムで造影して、炎症、潰瘍や腫瘍等の病変をみる検査です。			
超音波	腹部超音波	上腹部の内臓(肝、胆、膵、脾、腎)の形態を超音波でみる検査です。			
		以下よくある質問項目			
		・肝臓血管腫：肝臓の中に出来た良性的な腫瘍の一つです。拡大傾向がなければ心配ありません。			
		・胆嚢ポリープ：胆嚢の壁にコレステロール成分が入り込んで膨れた物で、拡大傾向がなければ心配ありません。			
・のう胞：肝臓、腎臓などにできる、水を含んだ袋のようなものです。数が少なく、拡大傾向がなければ心配ありません。					
便	便潜血反応	大腸ポリープや大腸がんなどの、腸の出血性病変の有無を知る上で有用です。			
子宮	子宮頸部細胞診	主に子宮頸癌についてチェックする検査です。(子宮体部癌の検査ではありません)			